



現場代理人
清水侑斗(20歳)

プロフィール

1997年6月15日生
出身地 滋賀県甲賀市
若いお父さん。長男・麗斗くん(1)。
社歴
2013年11月 本郷工業に入社。
4年間、現場で仕事を覚え、三度目の昇進試験挑戦で、今年10月、16人目、最年少の現場代理人となった。解体工事部門を担当。

現場代理人への昇進面接について

本郷工業で現場代理人になるには、工事現場での作業に熟知し技能を有しているだけでなく、50項目の基準をクリアし、最後に社長・幹部との面接試験で承認を受けないと昇進できない。面接は、現場代理人候補者の工事計画に関する説明力に加え、コミュニケーション力やリーダーを担う人材としての成長を判断される。本郷工業の顔となる現場代理人の登竜門である。

筆者紹介:住田崇(すみだ たかし)
元京都新聞記者。
民泊管理運営代行・WEB制作会社(株)スタートレックKYOTO代表取締役。京都市在住。

苦手意識、「情熱」で打ち砕く

再挑戦で最年少現場代理人に

最年少の現場代理人となった。本郷工業に入社したのは4年前。16歳の清水は、瀬田の解体現場から本郷工業の第一歩を踏み出した。仕事をバリバリとこなす諸先輩にもまれてきた日々。現場代理人の前段に当たる上級補佐の課題クリアに数か月を要し、現場代理人昇格試験にたどり着けずいた。20歳の今年10月、やっと昇格試験に挑むことができたが、一度は最終面接で不合格。「これがラストチャンス」と、自分に言い聞かせた二度目の面接試験で厚かった壁を突破。目標の現場代理人に昇格し、周囲の期待に応えた。

先輩のユーモア 初日の仕事楽しかった

中学を卒業して1年半、地元で先輩とつるんで夜遅くまで遊んでいた。通っていた専門学校に行かなくなった。「遊びも学校も楽しくなかった」。親戚のおばさんに本郷工業にいた田中裕行(裕行)を紹介された。会社で面接を行った。本郷智也社長と田中裕行現場代理人がいた。話をす

る社長と何も言わずに見ている田中。口下手の清水少年が面接でやっと伝えたのは、「早く仕事をしたい」。三日後、瀬田の解体現場に連れていかれた。「いかついゴリラみたいな先輩が待ってるぞ」。師匠になった田中が言った。不安で緊張した。自分よりずっと小さいおじさんが一人、現場で待っていた。先輩のユーモアに緊張がほぐれていった。解体資材を運ぶだけの

仕事だったが、「この初日が、なぜか楽しかった」。師匠からの一言 見つめなおした自分自身 田中の元で、解体工事のイロハを学んだが、現場では若さゆえの失敗や失態もあった。師匠の田中は決して清水を怒鳴りつけたり、怒ったりはしなかった。という。「色々問題起こして師匠にはたくさん苦労かけた」。



入社したてのころの清水少年(右)髪は金髪?茶髪?



清水には田中の忘れられない一言がある。「ここは学校ちゃう。俺はお前の先生ちゃうし」。目上の人に対してきちんとした態度を取れない自分を見つめなお

「必ず現場代理人になりよる」師匠の田中裕行(右)はずっと確信していた

した。「人と話すときの身だしなみ、接し方、言葉遣い。全部、田中さんに教えてもらった」。

二つの苦手意識 「挑戦」への壁

入社1年で現場代理人になる仲間もいる中で、清水は特に遅い昇格だ。若くして現場に立ったからこそ、現場の仕事はどんなに吸収した。一方で、複雑な計画を考え、パソコン作業が伴う事務仕事は、苦手だった。「見積もりを出すのが特に苦手で、仕事スイッチが入らなくて」と首を垂れた。人前で話すことや物事をわかりやすく説明することに苦手意識があった。「上手に伝えたくても、うまく言えない」。二つの「苦手」が、現場代理人昇格の壁だった。本郷社長からは「苦手にこそ積極的に挑戦しろ」と、言われ続けた。

計画を作成し、現場代理人昇格試験の面接に挑んだ。計画書の説明をする。聞いている社長の顔は冴えない。社長から矢継ぎ早に質問が飛んでくる。うまく答えられず、計画改善を指示された。一発で合格できなかったものの、再面接。師匠に相談すると「当たって砕けたらいい。あかんかったら、また来年がんばれ」。二度目の面接直前、社長の奥さんに頼んで模擬面接の練習をしてもらった。「うまく伝えることに必死」だったが、面接開始予定時刻30分前、練習途中の清水に社長が声をかけた。「よし、始めよ」。想定外の出来事に頭が真っ白になったまま、面接は始まり、終わった。



技術ではなく情熱 この経験からのスタート

「うまく説明できず、もう、あかん、です」と振り返り苦笑いした。結果は「合格」だった。会社からの評価は、「言葉は上手ではなかった。しかし、何としても伝えたいという必死さ、情熱を感じさせるものだった。それが「彼を信用できる」と感じさせた」。最年少の現場代理人が誕生した。「これから本場のスタート。逃げないで、とことんぶつかっていきます。本郷工業は、あほやっただ自分を成長させてくれた会社ですから」と、誇らしげに笑った。

想定外の出来事 社長30分早いです！ 上級補佐の課題をクリアした今年10月、勝負の時が来た。施工



NEXT PRESS

ぜひ、次号をお楽しみに！

HONGO PRESS とは

「人こそ会社の財産、文化、未来」これは弊社の信念です。縁あって弊社で働いている社員ひとり一人の姿、人となりをみな様に紹介することは、弊社の姿をみな様に知っていただくことと同じです。その役割をこのプレスは担っています。

The key person for Yuto Shimizu

田中裕行(44) 現場代理人

彼を教える中で、私も自分の教え方に問題があると教えられた。正味、彼が成長を見せたのはこの1年でした。少し時間が必要だったのは、彼のペースだったんでしょ。いつか現場代理人になると、ずっと確信していました。理由は明白。朝早い解体班の仕事にもかかわらず、16歳のときから4年間、無遅刻。一人暮らしを始めても、夜どんなに遅くても、です。絶対に遅刻しなかった。そこはきっちりとしていた。必ずものになる、一人前の現場代理人にしたろうと、ずっと思っていた。





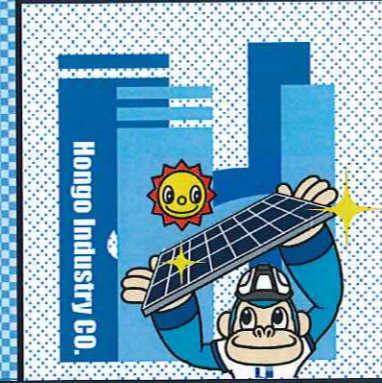
2017.11.1 発行

HONGO PRESS No.16

有限会社 本郷工業

- ◆草津工事管理本部
〒520-0058
滋賀県草津市野路東 6-3-4 プレジオ 3 (1 階)
TEL : 077-566-8200 FAX : 077-566-2234
- ◆近江八幡営業所
〒523-0893
滋賀県近江八幡市桜宮町 206-23 プレジオ 5 (5 階)
TEL : 0748-43-2117 FAX : 0748-43-2118

MAIL : hongo@pop.biwako.ne.jp
H P : <http://www.hongou-i.jp>

太陽光追尾式架台システム びわ湖環境ビジネスメッセ 2017 出展

大好評



9月に続き 10月も展示会に出展させていただきました。今回は 10月18日～20日の3日間「長浜バイオドーム」で開催された『びわ湖環境ビジネスメッセ 2017』へ出展させていただきました。『びわ湖ビジネスメッセ 2017』は今回で20回目の記念開催ということもあり、豪華客船ビアンカでセミナーを開催されるなど様々な催しもあり、3日間の来場者数は、34720人!(^^)! 来場者の皆様も出展者もとても有意義な時間をすごすことができ、会場も大いに盛り上がっていました。弊社ブースへも、たくさんの方々にご来場いただきありがとうございました。従業員一同、心より感謝申し上げます。当日は【太陽光追尾式架台システム】についてのご案内・説明などに至らぬところもあったかと思いますが、少しでも気になることやご不明な点は、弊社までご連絡いただけると幸いです。



22期 決算報告会 23期出発式

Special Thanks
23rd start
2017.10.1

おかげ様で2017年10月1日をもちまして、本郷工業は23期を迎える事ができ、10月2日には22期決算報告会、10月23日に23期出発式を執り行わせていただきました。これもひとえに日頃お世話になっておりますお客様や取引業者様、近隣住民の皆様のご支援の賜物と、従業員一同心より感謝しております。今後も皆様にご満足していただけるよう精進してまいります。今期もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ベトナム1期生が帰国(去)の送別会

23期決算報告会后、10月末でベトナムへ帰国する、ベトナム実習1期生の送別会をしました。3年間本郷工業で頑張ってくれた1期生の3人に、皆から感謝の気持ちをこめて花束や、ありがとうTシャツ・記念アルバムをプレゼント!! 社長からは、ともに過ごした時間を大切にしてほしいとの思いをこめて腕時計が贈られました。3年というかけがえない月日を本郷工業で過ごしてくれたことを卒業証書という形にし、無事3人を卒業生として送り出す事ができました。




ホームページリニューアルしてます!!
覗きにきてね☆ <http://www.hongou-i.jp>